

## 企画展「司書・司書補講習の歩みとこれからの図書館」について — 桃山学院大学の司書・司書補講習の60年の歩みを中心に —

学院史料室 玉置 栄二

### はじめに — 展示の概要 —

桃山学院大学の司書・司書補講習が2020（令和2）年で開設60周年を迎えました。そこで、司書・司書補講習の業務を担っている桃山学院大学エクステンション・センター（以下、エクステンション・センター）と桃山学院史料室（以下、学院史料室）が協力し、司書・司書補講習の60年の歩みに焦点をあてた展示を以下の日程で開催しました。

- (1) 会場：桃山学院大学 聖ペテロ館2階 学院史料展示コーナー

会期：2021年1月20日～3月26日

※新型コロナウイルスによる緊急事態宣言下での開催であったことなどを考慮し、3月26日以降も会期を延長した

- (2) 会場：泉大津市役所1階ロビー

会期：2021年3月30日～4月9日

※2月中の開催を予定していたが、新型コロナウイルスによる緊急事態宣言のため上記の会期に延期した



資料1 学院史料展示コーナー



資料2 泉大津市役所1階ロビー

上記の通り、展示は泉大津市役所でも開催されました。これは、2014（平成26）年の泉大津市と桃山学院大学との包括連携協定の締結以後、泉大津市教育委員会と学院史料室が連携事業として展示などを継続的に実施していることに加え、エクステンション・センターと学院史料室が司書・司書補講習をテーマとする展示の準備を進めていた時期と、泉大津市が新図書館の開館に向けて準備を進めていた時期が図らずも重なったことによります。また、展示の主目的としては、桃山学院大学が「司書・司書補講習の歩みの紹介」、泉大津市が「新図書館の紹介」と、展示開催に対する両者の思惑は異なりましたが、両者の展示のテーマが「司

書講習」と「図書館」という非常に親和性の高い事柄であることから、どちらにも焦点を当てることができる展示を企画することは可能であり、そうすることが両者にとっても意義深い展示になるのではという考えに至り、協同で開催する運びとなりました。

以上のような事情を踏まえて、展示のタイトルは「司書・司書補講習の歩みとこれからの図書館」とし、展示内容は以下の5つの章立てで構成しました。

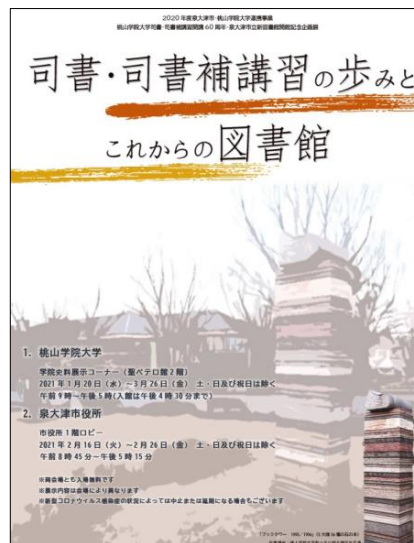
1. はじめに - 司書・司書補講習とは -
2. 戦前の図書館と司書
3. 司書・司書補講習の歩み - 桃山学院大学を中心に -
4. 図書館の仕事
5. これからの図書館、いま話題の図書館

※上記は桃山学院大学での展示構成であり、泉大津市役所での提示については順序等を変更した

本稿では、上記の5つの章のなかから、展示の主題である「3. 司書・司書補講習の歩み - 桃山学院大学を中心に -」の内容に焦点をあてます。1960年代から1980年代の事柄が中心となりますが、展示で使用した資料や写真を紹介しながら、桃山学院大学の司書・司書補講習の60年の歩みを振り返ってみたいと思います。

## 1. 開設までの経緯 1950年～1960年

1950（昭和25）年4月30日、図書館法が制定されました。図書館法では、第4条第1項で図書館に置かれる専門的職員を司書及び司書補と称すると規定されました。また、第5条第1項において、司書となる資格を有するためには、司書の講習を修了するか、大学で図書館に関する科目を履修することが定められました。さらに、図書館法附則4項および6項において、図書館法が施行されたときに図書館で館長もしくは司書または司書補に相当する職務に従事している者については、図書館法施行後5年間は司書または司書補の資格を有するとし、法律施行後5年以内に司書（または司書補）の講習を受ければ、法律施行後5年を経過しても司書（または司書補）の資格を有するものとする定められました。つまり、現在では司書資格の取得を目指す多種多様な人のための学習の場としての役割を担っている司書講習ですが、本来の制度の目的は現職の図書館員に司書資格を付与することでした。



資料3 展示チラシ

司書講習は、図書館法の公布から1年3カ月を経た1951（昭和26）年7月から始められました。当初は国立大学で主に開催されていましたが、1955（昭和30）年頃からは私立大学が中心になりました。関東では東洋大学、鶴見女子短期大学（現鶴見大学）、中部では愛知学院短期大学（現愛知学院大学）が実施していました。大阪では、関西大学の図書館が文部省の委嘱を受けて図書館学講習所を開設し、図書館法施行前の1949（昭和24）年4月から講習を始めました。この講習は1950（昭和25）年の図書館法制定以降も継続されて多くの受講生を集めました。1955（昭和30）年を最後に途絶えることになりました。関西では1957（昭和32）年に天理大学が講習を開催しましたが、1度だけでした。そのため1950年代末の関西は、司書・司書補講習の開講校が1校もない状態になっていました。そんなときに手を挙げたのが桃山学院大学でした。

桃山学院大学が司書・司書補講習を開設したのは1960（昭和35）年です。これは、大学が開学した翌年のこととなります。新設の大学の認知度の向上に繋がればという強い思いがあったためであり、当時の教授会は司書・司書補講習に大変な関心を寄せていたと言われています。1960（昭和35）年5月30日におこなわれた第23回緊急教授会において、司書講習の開設が了承されました。

桃山学院大学の司書・司書補講習の開設にあたっては、三辺清一郎と木原通夫の2人が重要な役割を果たしました。大学の最初の図書館長を務めた三辺清一郎（経済学部教授）は慶應義塾大学図書館に勤務した経験があり、司書・司書補講習の誘致に熱心でした。木原通夫（慶應義塾大学文学部図書館学科卒）は大阪大学附属図書館に勤務しているときに、三辺清一郎により桃山学院大学の図書館の立ち上げのために招聘されました。実質的に大学の図書館業務の準備や司書講習誘致の事務作業をおこなったのは木原通夫であり、そもそも司書講習の誘致を提案したのも木原通夫だったと言われています。木原通夫は1962（昭和37）年からは自らも教壇に立ち、目録法や分類法を講じました。

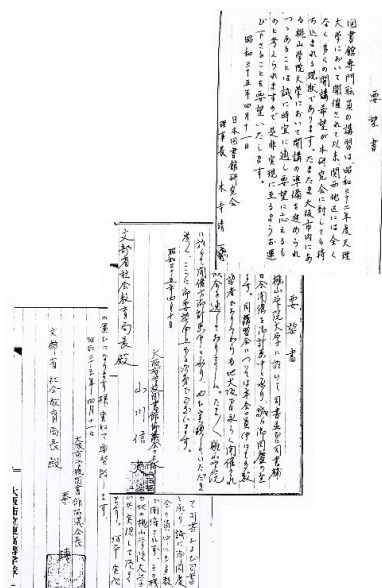


資料4 三辺清一郎  
「卒業アルバム」（1963年3月卒）より



資料5 木原通夫（右端）と図書館員  
「卒業アルバム」（1965年3月卒）より

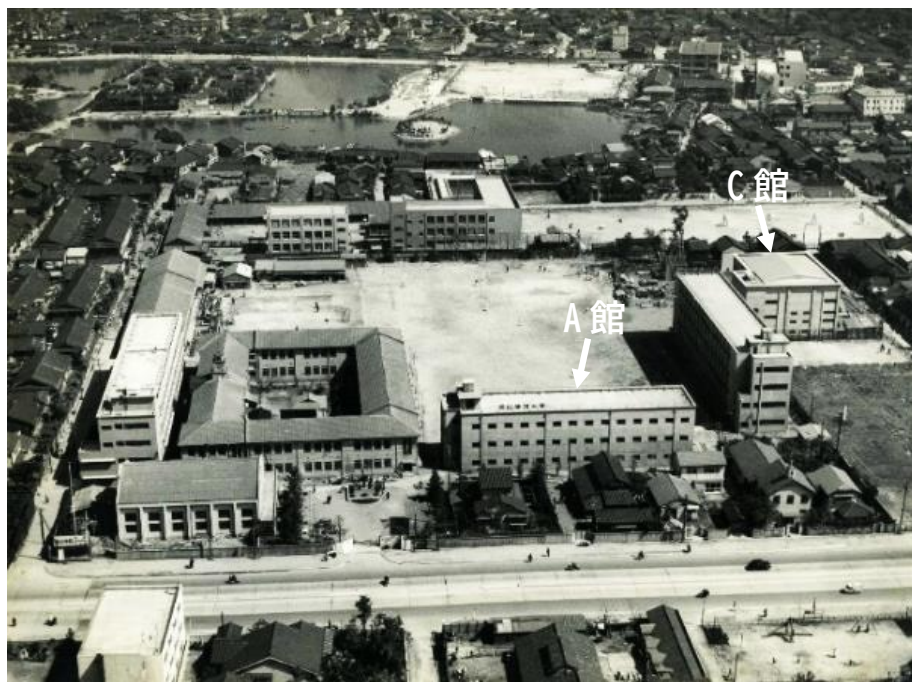
桃山学院大学での司書・司書補講習の開催に向けて動いたのは、学内の関係者だけではありませんでした。日本図書館研究会、大阪府学校図書館協議会、大阪市学校図書館協議会が桃山学院大学での司書講習の開催を実現するため、文部省に要望書を提出しています。資料 6 がそれらの要望書ですが、桃山学院大学での司書・司書補講習の開催に対する図書館界の期待の大きさを窺うことができます。



資料 6 開講のための要望書 (1960 年)  
『司書講習の三十年』(1990 年) より

## 2. 草創期の講習の様子 1960 年～1964 年

現在、司書・司書補講習は和泉キャンパスで開催されていますが、開設された場所は大学開学の地である大阪市阿倍野区の昭和町キャンパスでした。資料 7 は、司書・司書補講習が開設された 1960 (昭和 35) 年頃の昭和町キャンパスの全景写真です。司書・司書補講習に関わる業務は C 館に設置されていた大学の図書館が担い、講義には A 館と C 館の教室が使用されていました。

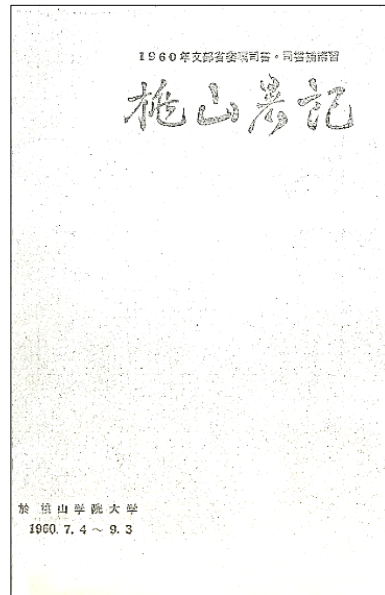


資料 7 司書・司書補講習が開設された頃の昭和町キャンパス (1960 年)

司書・司書補講習が始められた頃の桃山学院大学の教室には、冷房設備がありませんでした。通常、講習はもっとも暑い夏の約2か月間におこなわれます。そのため、受講生たちは汗だくになりながら講義を受けていました。資料8の『桃山暑記』は、暑さとの闘いでもあった講義の記録として、受講生たちが作成した文集です。2年目以降の文集は『桃山暑記』ではなく、『記念文集』として毎年発行されました。

講習2年目の1961（昭和36）年、教授会は「桃山学院大学図書館学奨学金」という奨学金制度を設け、審査と授与については図書館学研究会に委ねました。そのため、図書館学研究会の機関誌『図書館界』に掲載された論文が審査対象とされました。この奨学金の受賞作は、広庭基介の「図書館運動の先駆者としての島文次郎」と西村喜世和の「書物の害虫—死番虫を中心として—」でした。試みとしては良い制度でしたが、残念ながら1度だけで終わってしまいました。

1963（昭和38）年、学内の学生を対象とする司書課程が設けられました。この時点でも専任教員は採用されず、講師は学内の兼任の教員（経済学部）と学外の非常勤講師が担っていました。講師の確保には日本図書館研究会の協力が欠かせませんでした。図書館学関係の専任教員の採用には、さらに10年以上の歳月を要することになります。



資料8 『桃山暑記』（1960年）  
『桃山学院大学司書・司書補講習50周年記念誌』（2011）より



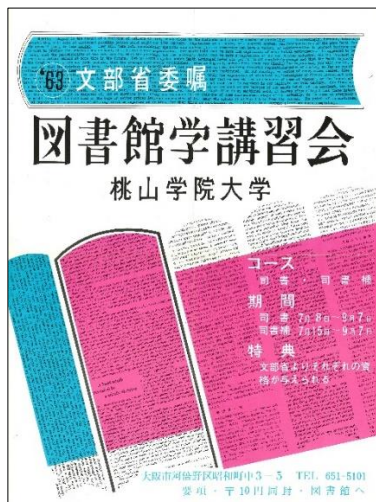
資料9 『司書・司書補受講生アルバム』（1961年度）



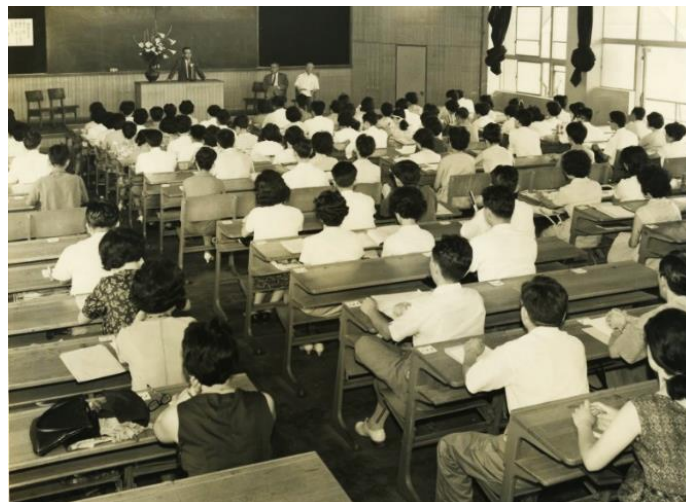
資料10 草創期の講師陣（1960年）

『司書講習の三十年』1990年より

後列左から 岩猿敏生、鷺見寿久、山田憲太郎、林政雄、高橋重臣、山下 栄、森 耕一、小倉親雄  
前列左から 飯田清次郎、小野則秋、三辺清一郎、木寺清一、西藤寿太郎



資料11 受講案内ポスター（1963年度）

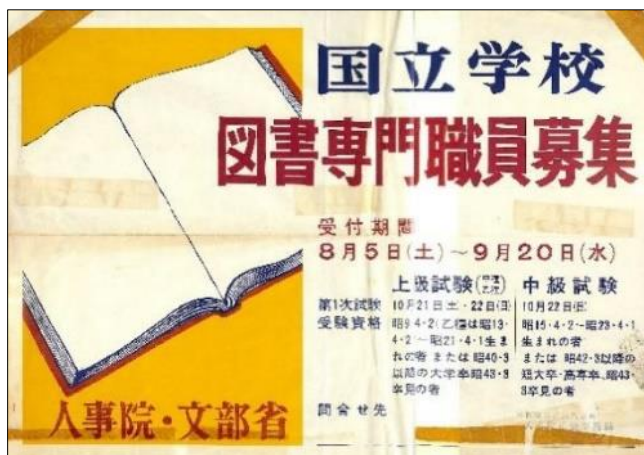


資料12 開講式の様子（1964年度）

### 3. 夜間コースの導入から専任教員の採用まで 1960年代後半～1970年代

1966（昭和41）年4月、桃山学院大学は登美丘学舎を竣工させ、それにともない2つ目の学部である社会学部を設置しました。これにより桃山学院大学は2つのキャンパスで講義がおこなわれるようになりましたが、司書・司書補講習は引き続き昭和町キャンパスで実施されました。

桃山学院大学の司書・司書補講習は開設以来、夏期集中コースとして実施されてきましたが、1968（昭和43）年にそれが改められ、夜間半年コースが導入されました。これは短期養成型として実施されていた司書・司書補講習に対して、批判の声が強くなっていたためでした。桃山学院大学の司書・司書補講習が夜間半年コースに踏み切った1968（昭和43）年には、図書館法施行規則が改正され、司書資格取得に必要な単位が15単位から19単位に改められました（実施は1969年度から）。このような状況に対応するため、桃山学院大学の司書・司書補講習では夜間半年コースだけでなく、夏期集中と夜間半年コースの並行実施や、夜間半年コースを年に2度実施する2期制（1：春～夏、2：秋～冬）を導入するなど、受講者にとってより良い講習の在り方が模索されました。



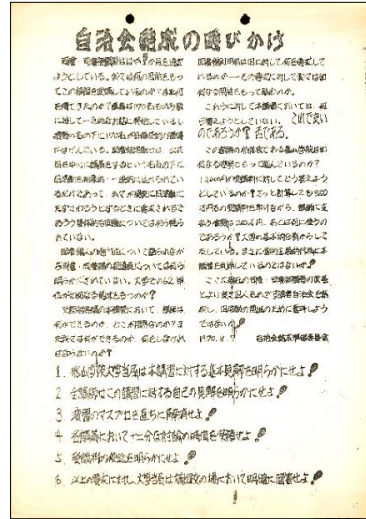
資料13 学内に掲示されていた「国立学校 図書専門職員募集」のポスター（1967年）

1960年代後半から1970年代初頭にかけて、桃山学院大学も他大学と同様に学園紛争の波に飲み込まれ、学舎が封鎖されるなど、学内は非常に荒れていました。このような状況のなかでも司書・司書補講習は実施されていましたが、興味深いことに当時の受講生たちは学生運動しながらに自治会を結成し、講義や教室環境の改善などを大学側に要求しています。資料14は、受講生たちが作った自治会結成を呼び掛けるためのビラです。この他にも、受講生たちが大学側に提出した「公開質問状」や団交への参加を呼びかける「本日(4:00～, 303教室)団交に結集を!!」と書かれたビラなどが残されています。

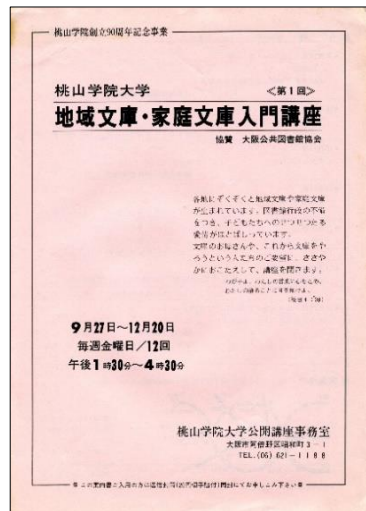
1970(昭和45)年、学園紛争の影響を受けて事務機構が改革されることになり、事業局が新設され、そのもとに社会教育課が置かれました。これを機に、司書・司書補講習の業務が図書館から社会教育課に移されました。この業務の移管には、司書講習の業務を担ってきた木原通夫の椋山女学園大学への転出が大きく関係していたと思われます。社会教育課には、司書・司書補講習を含む社会教育関連の業務を担う職員が新たに配置されました。

市民に対して門戸を開いた社会教育活動の拠点として位置づけられていた社会教育課は設置の翌年(1971年)、昭和町キャンパスのA館に児童図書館「ももやまぶんこ」を設置しました(のちにD館に移転。2004年3月閉館)。

大学に経営学部が設置された1973(昭和48)年、事業局が改組され、新たに大学司書講習事務室が設置されることになりました。大学司書講習事務室は司書・司書補講習の業務を担うとともに、社会教育課の時代と同様、社会教育活動の拠点としての機能も引き続き果たすことになりました。そのため、大学司書講習事務室は1973(昭和48)年度から毎年、さまざまな社会問題をテーマに、一般市民を対象とした公開講座を開催しました。また、1974(昭和49)年には、司書・司書補講習で培ったノウハウを活かして、公開講座



資料14 「自治会結成の呼びかけ」(1970年)



資料15 第1回地域文庫・家庭文庫入門講座のパンフレット(1974年)



資料16 第1回地域文庫・家庭文庫入門講座の様子(1974年)

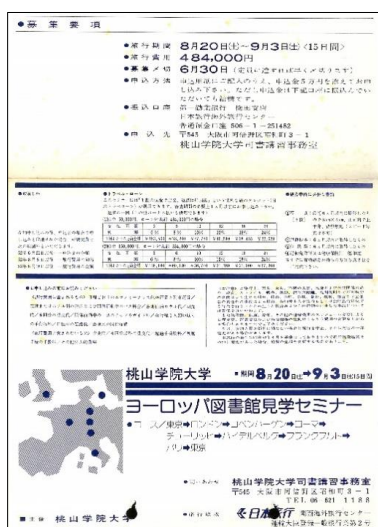
「地域文庫・家庭文庫入門講座」を学院創立 90 周年事業の一環として開催しました。これは、当時増えていた地域文庫や家庭文庫に携わっていた住民の要望に応えることを目的として開催されました。この講座は後の図書館学をテーマとする講座の開催に繋がりました。

1976（昭和 51）年、大学司書講習事務室は愛媛県新居浜市にあった桃山学院短期大学で司書講習を開催しました。これは当時、四国地方では司書講習が開催されておらず、昭和町キャンパスでおこなわれていた講習に四国や中国地方から参加されている方が多数おられたため企画されました。桃山学院短期大学で開催された夏期講習には、300 人以上の受講生が参加しました。

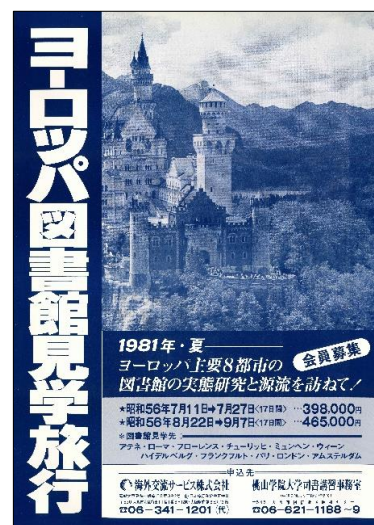
1977（昭和 52）年、「海外の図書館について学ぶ機会が得られたら…」という図書館で活躍されている方々の声に応え、大学司書講習事務室は「ヨーロッパ図書館見学セミナー」を企画しました。8月20日から9月3日の15日間の日程で、ロンドン、コペンハーゲン、パリなどのヨーロッパの図書館を巡っています。参加者は35名（男性6名、女性29名）でした。出発前の7月18日には、坂本賢三（当時、桃山学院大学講師）による「ヨーロッパ図書館の歴史と概況」と題した予備講義がおこなわれました。このような外国の図書館を巡るツアーはその後も実施され、1981（昭和 56）年には「ヨーロッパ図書館見学旅行」と題したツアーが企画されています。



資料 17 桃山学院短期大学で開催された司書講習の開講式当日の様子（1976 年）



資料 18 ヨーロッパ図書館見学セミナーの案内パンフレット（1977 年）



資料 19 ヨーロッパ図書館見学旅行の案内ポスター（1981 年）



図書館学の専任教員が不在のまま十数年にわたって継続されてきた桃山学院大学の司書・司書補講習と司書課程に、ようやく専任教員が配置されることになりました。1978（昭和53）年4月に専任教員として着任したのは、大阪府立大学附属図書館に勤務しながら図書館整理技術などを研究していた志保田務（現桃山学院大学名誉教授）でした。



資料20 講義中の志保田務（1978年）

この専任教員の採用に関して、桃山学院大学の司書・司書補講習の講師を長期にわたって務めるとともに、1970年代には桃山学院大学の司書課程の非常勤講師も務めた塩見昇（現大阪教育大学名誉教授）が当時を振り返り次のように記しています。「長年にわたって司書・司書補講習を開講しながら、大学に図書館学の専任教員を置かないというのはおかしい、学生への責任もこれでは果たせまい、専任無しでもやっていけるといふ安易な姿勢が続くのならば、学院への出講は断る、といった意味の申し入れを当時の勝部元学長に行い、検討するとの回答を得たことがあった。その後、志保田さんが着任され、私の桃山への出講も終わった」（『桃山学院大学司書・司書補講習50周年記念誌』、p.19）。以上の記述からも窺えるように、専任教員の採用を大学に促したのは学外の講師の方々であったとされています。

#### 4. 図書館学特別講座の開催からコロナ禍の講習まで 1980年代～2020年

講習を修了した人たちから「さらなる学習（研修）の機会を設けてほしい」との声があがっていました。大学司書講習事務室はその要望に応え、1982（昭和57）年2月に図書館学特別講座（上級コース、入門コース）を実施しました。この講座はその後も継続して実施され、司書・司書補講習と司書課程の修了者たちの学習の機会として活用されました。

資料21 図書館学特別講座の案内ハガキ（1981年度）

資料22 第5回図書館学特別講座の案内ポスター（1986年度）

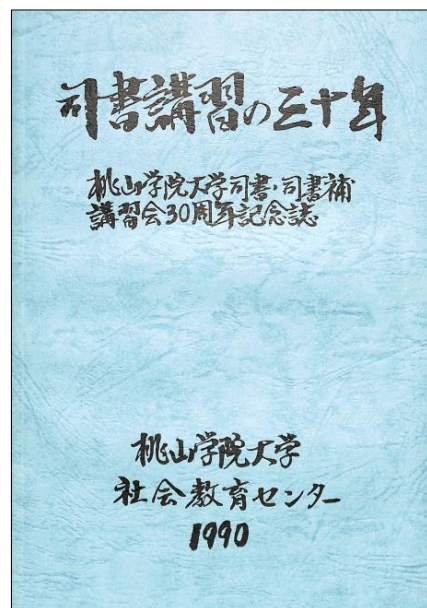
桃山学院大学に文学部が設置された 1989（平成元）年 4 月、大学の各部署に分散していた社会教育に関わる業務を統括することを目的として、社会教育センターが設置されました。これにより司書・司書補講習に関わる業務は社会教育センターの所管になり、大学司書講習事務室は社会教育センター司書講習事務室に改められました。

1989（平成元）年、司書講習事務室が担当となり、「アリゾナ桃山図書館員交流会」が設けられました。これは、桃山学院大学の元教員である大谷泰照（現大阪大学名誉教授）によって持ち込まれた話がきっかけとなり始まりました。交流会の正式名称は「ホーナーフェロシップ基金交流プログラム」と言い、レイトン・ホーナー博士の寄付基金をもとに運営されました。このプログラムにより、1990（平成 2）年度末にはアリゾナ研修が実施され、司書・司書補講習修了者を含む 10 人が参加しました。レイトン・ホーナー博士は GHQ の民間情報教育局の担当官として来日し、日本の学校教育制度の刷新に関わった人物です。また、戦後初の英語教科書として親しまれた“Jack and Betty”の編集に携わった人物としても知られています。なお、このプログラムは、1999（平成 11）年からは日本図書館協会とアリゾナ州図書館協会との共同プログラムとなり、現在も継続されています。

1990（平成 2）年、司書・司書補講習は開設 30 周年を迎えました。1991（平成 3）年 3 月 21 日には、ホリデイ・イン南海で記念式典・祝賀会が開催されました。また、30 周年記念誌として、『司書講習の三十年』（社会教育センター、1990 年 12 月 21 日）が刊行されました。

1995（平成 7）年 4 月、桃山学院大学は登美丘キャンパスを後にして、和泉キャンパスに全面移転しました。その 2 年後の 1997（平成 9）年、司書講習事務室を所管していた社会教育センターが、司書・司書補講習などの社会教育や学生の資格教育等もあわせて担当するエクステンション・センターに改組されました。エクステンション・センターの事務室は昭和町キャンパスと和泉キャンパスの両方に置かれ、司書・司書補講習については昭和町キャンパスでの開催が継続されました。なお、この年には図書館法が改正され、講習科目が必修科目 18 単位、選択科目 2 単位の合計 20 単位に改められました。

司書・司書補講習は 1960（昭和 35）年の開設以来、一貫して昭和町キャンパスで実施されてきました。しかし、大学に関連する事業の集中管理と高度な設備の活用を図ることを目的に、2005（平成 17）年に昭和町



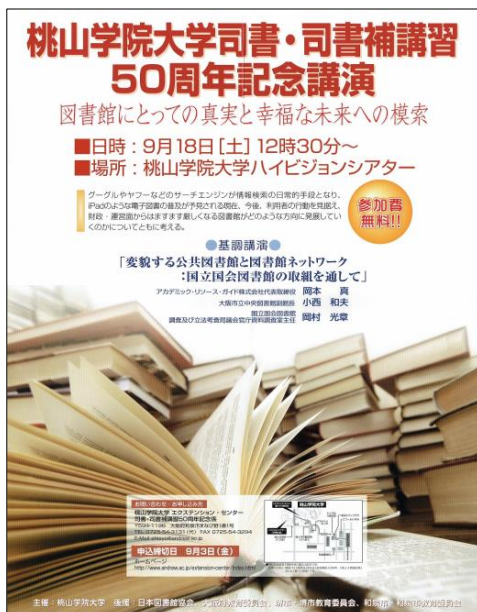
資料 23 『司書講習の三十年』（1990 年）

キャンパスの司書講習事務室が桃山学院大学の本拠地である和泉キャンパスに移されました。これにより 46 年間にわたる昭和町キャンパスでの司書・司書補講習の歴史に幕を下ろすことになりました。

2008（平成 20）年 6 月、図書館法が改正され、司書・司書補講習は一つの節目を迎えました。この改正以前の大学における司書養成課程には、科目構成や内容が省令科目として規定されていた司書講習とは異なり、明確な規定がありませんでした。そのため大学における司書養成課程は、司書講習のために定められた省令科目を準用して運用されてきました。それが 2008（平成 20）年の改正により、大学で履修すべき図書館に関する科目を文部科学省令で定めることが規定されました。これにより、司書・司書補の養成制度の主体が現職者を主対象とする司書講習から学生を対象とする司書課程に移ったと考えられています。

2010（平成 22）年、司書・司書補講習は開設 50 周年を迎えました。9 月 18 日には和泉キャンパスにおいて「図書館にとっての真実と幸福な未来への模索」という統一テーマのもと、50 周年記念講演が開催されました。また、記念講演の模様を取めた『桃山学院大学司書・司書補講習 50 周年記念誌』（桃山学院大学エクステンション・センター、2011 年）が刊行されました。

2020（令和 2）年度の司書講習は新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、夏期に開講予定であった講習が冬期に延期されました。講義が中心となる 12 月と 1 月の授業はオンライン（Zoom）、演習が中心となる 2 月と 3 月の授業は対面で実施されました。



資料 24 50 周年記念講演のポスター（2010 年）



資料 25 『桃山学院大学司書・司書補講習 50 周年記念誌』（2010 年）

2020年度司書講習は、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、例年司書講習を開講している大学4校が開講を見送り、聖徳大学と本学のみ開講された。聖徳大学は対面での開講、本学は夏の開講を冬に延期し、オンライン授業（講義中心の12、1月）と対面授業（演習中心の2、3月）を組み合わせた開講となった。

### 開講ガイダンス・オンライン開催(12/1)

対面授業からオンライン授業に切り替わることによる受講生同士のコミュニケーション不足を補うために、授業にグループワークを積極的に取り入れました。それに先立つ開講式では、オンライン授業の予行演習も兼ねて、Zoomによるオンライン開催。ガイダンス前に受講生プロフィールを作成し、当日は自己紹介して頂きました。

「受講生プロフィール」(右写真)  
表紙の日本地図に受講生の在在する県のアイコンを記している。オンライン化に伴い関西以外の受講生が増えた。プロフィール紹介欄の隣写真にイラストが多いのは、「オンライン授業による顔出しは任意・イラストも可」としたため。




### リアルタイム授業/グループワークなど

リアルタイム授業では、対面授業と同様の講義に加え、グループワーク、ディスカッションなど受講生がより積極的に参加する授業を実施。Zoomのブレイクアウトルーム一班分け機能を使用。

① 12月7・21日 水沼友宏先生「図書館概論」  
12/7…図書館員、大学生など属性ごとに班分け。共通点は何かを探ってもらうアイスブレイク。つぎに最初の班を均等にシャッフルした班で「図書館を使用しない層に連絡してもらうには？」を考えるグループワークを行い発表。  
12/21…(自分が図書館員だと仮定して)「少年Aの『絶叫』を所蔵するか?」、「日米の図書館の違いを調査し、2つのテーマから1つを選んでもらい、テーマごとの班を数班つくりグループワークの後に発表をした。

② 12月17日 尾谷雅彦先生「生涯学習概論」  
ランダム(自動)で班分けし自己紹介と班名決め。個人ワーク(公共のスペースでどのような行為を迷惑と考えるか?多様な事例の中から順位を決める)の後、グループワークを行い、各班で順位を決めた。  
正解の無い問いに順位をつけ、話し合うことで、自分の想定を超える価値観の多様性に気づかされたというコメントが多く寄せられた。

③ 1月7日 竹田芳則先生「図書館情報資源概論」  
自分の好きな図書館をプレゼンし、各班のチャンスを決める「リプリオバトル」(「ビプリオバトル」をもじったもの)が行われた。その後、グランドチャンスを決める投票を行った(1月21日)。  
受講生の推薦する図書館は、統先で立ち寄った図書館、自身が勤めた図書館など、図書館の多様な魅力を知る機会になると同時に、図書館への思いの深さを知る機会もなった。





資料 26 コロナ禍で実施されたオンライン授業(展示用パネル)  
エクステンション・センター提供

## さいごに

桃山学院大学の司書・司書補講習は鶴見大学に次ぐ歴史があり、関西の図書館を中心に多くの有用な人材を輩出してきました。2019(令和元)年時点の桃山学院大学の司書と司書補をあわせた総受講者数は14,923名(司書11,252名+司書補3,671名)、総修了者数は10,544名(司書7,635名+司書補2,909名)を数えます。これらの数字の持つ意義については、例えば2013(平成25)年時点の鶴見大学の司書と司書補をあわせた総修了者数が14,867名(司書9,879名+司書補4,988名、『鶴見大学司書・司書補講習60周年記念誌』pp.54-55)であり、同じ年の桃山学院大学の総修了者数が13,662名(司書10,802名+司書補2,860名)であるということから察していただければと思いますが、全国的にも桃山学院大学の司書・司書補講習は司書・司書補の一大供給源として高く評価されてきました。

しかしながら、ここ数年の桃山学院大学の司書・司書補講習の受講者は減少の一途を辿っています。司書講習の受講者数が最も多かった1976（昭和51）年には336名を数えましたが、2019（平成31・令和元）年の受講者数は36名であり、ピーク時の10分の1程度になっています。これには、通学に至便な大阪市内の昭和町キャンパスから和泉キャンパスへの講習会場の変更（2006年度から）をはじめとして、様々な要因が影響していると思われませんが、受講者数の減少は今後の司書・司書補講習にとって見過ごすことのできない事象であることは否定できないでしょう（エクステンション・センターの担当者に伺ったところ、2020年度、2021年度の受講者数は少し増加したようですが）。

筆者は司書・司書補講習の歴史については、これまでは『桃山学院百年史』に記されている僅か数ページの知識しか持っていませんでした。今回、展示を開催することになり初めて司書・司書補講習の歴史に足を踏み入れることになりました。その過程で、1960年代から1970年代の「司書講習廃止論」、学内の財政難による「司書・司書補講習返上」の声、指定管理者制度が図書館と図書館で働く人々に及ぼしている影響、それに上記で触れた受講者数の減少などを知るにつけ、司書・司書補講習が歩んできた道はかなり険しいものであると理解しました。おそらくこれは多くの人に同意していただけたと思います。

司書・司書補講習が廃止という危機を何度も乗り越え、60年以上にわたって途切れることなく開催されてきたのは、現在では図書館界の重鎮となっている司書・司書補講習の講師を務められた方々をはじめとして、学内外の関係者が苦勞と努力を重ねてこられたおかげです。それらは残された資料からもひしひしと伝わってきます。

司書・司書補講習や図書館の現状からすると、今後の司書・司書補講習が辿る道も決して平坦なものではないことは容易に推察されますが、桃山学院大学の司書・司書補講習が今後も存続・発展し、開設70周年を迎える2030年に再び展示などを実施できることを祈念して筆を擱きたいと思います。

桃山学院大学司書・司書補講習

受講者・修了者数一覧

【司書】

年度	1960	1961	1962	1963	1964	1965	1966	1967	1968	1969	
	S	S	S	S	S	S	S	S	N	N.N	
受講者数	147	146	142	140	149	211	165	227	129	205	
修了者数	124	115	111	100	126	165	126	180	68	105	
年度	1970	1971	1972	1973	1974	1975	1976	1977	1978	1979	
	S	S.N	S.N	N	S.N	N	S.N	N	S.N	N	
受講者数	152	301	301	178	325	180	336	232	227	224	
修了者数	141	267	254	123	303	160	275	141	146	143	
年度	1980	1981	1982	1983	1984	1985	1986	1987	1988	1989	
	N	N	S	S	S.N	N	S.N	N	S.N	N	
受講者数	213	167	240	257	235	140	175	188	295	224	
修了者数	150	98	162	163	153	90	109	124	160	151	
年度	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	
	S.N	N	N	N	S	S	S.N	N	S.N	N	
受講者数	198	217	180	274	275	302	236	223	230	197	
修了者数	120	137	146	207	180	227	163	162	180	147	
年度	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	
	S.N	N	S.N	N	N	N	S	S	S	S	
受講者数	207	217	205	202	206	166	163	157	110	113	
修了者数	156	172	166	168	166	130	122	115	80	73	
年度	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	合計
	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	
受講者数	124	102	144	103	105	66	104	66	73	36	11,252
修了者数	85	86	99	82	69	53	66	40	60	27	7,635

S：夏期集中講習／N：夜間講習

【司書補】

年度	1960	1961	1962	1963	1964	1965	1966	1967	1968	1969	
	S	S	S	S	S	S	S	S	N	N.N	
受講者数	88	110	134	117	107	155	116	156	78	140	
修了者数	76	100	127	113	96	134	103	145	55	72	
年度	1970	1971	1972	1973	1974	1975	1976	1977	1978	1979	
	S	S	S	N	S	N	N	N	N	N	
受講者数	107	114	103	93	109	113	108	113	117	90	
修了者数	104	108	98	52	83	96	77	79	81	72	
年度	1980	1981	1982	1983	1984	1985	1986	1987	1988	1989	
	N	N	S	N	N	N	N	N	N	N	
受講者数	83	79	86	55	50	46	46	38	48	26	
修了者数	51	47	53	35	34	30	36	26	38	19	
年度	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	
	S.N	S.N	S.N	N	N	S	N	N	S	N	
受講者数	36	42	45	75	58	73	49	49	46	45	
修了者数	29	35	40	66	28	51	42	41	36	37	
年度	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	
	S		S		S	S		S		S	
受講者数	44	-	40	-	37	32	-	29	-	33	
修了者数	40	-	35	-	26	23	-	21	-	29	
年度	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	合計
		S		S		S		S		S	
受講者数	-	26	-	21	-	34	-	18	-	14	3,671
修了者数	-	21	-	20	-	24	-	14	-	11	2,909

S：夏期集中／N：夜間  
司書補講習は2001年度より隔年開講

講習・講座などの様子



「参考業務演習」(1980年)



図書館見学 大阪府立中之島図書館 (1980年)



「参考業務実習」(1982年)



「障害児と絵本」(第5回図書館学特別講座、1985年)



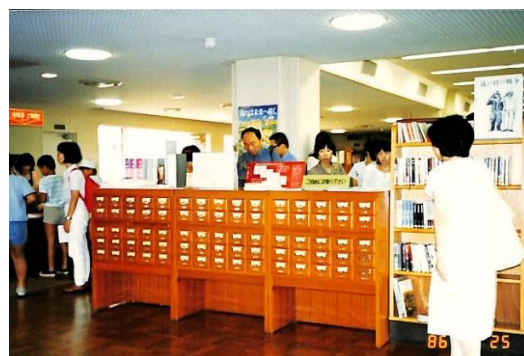
事務室前の掲示板 (1986年)



図書館見学 松原市民図書館 (1986年)



C館 カンタベリーホール (1986年)



「レファレンスサービス演習」(2005年)

## 桃山学院大学の司書・司書補講習の略歴

- 1950年 [一般] 「図書館法」公布
- 1953年 [一般] 「学校図書館法」公布
- 1954年 [一般] 全国図書館大会において、「図書館の自由に関する宣言」採択  
[一般] 「学校図書館司書教諭講習規程」制定
- 1959年 [大学] 桃山学院大学開学（経済学部）
- 1960年 [講習] 桃山学院大学司書・司書補講習開講（7月4日）  
※大学図書館事務室が業務を担当（1969年度まで）
- 1963年 [大学] 司書課程設置
- 1964年 [一般] 図書館短期大学設置
- 1966年 [大学] 登美丘学舎竣工・社会学部設置
- 1968年 [一般] 図書館法施行規則改正、司書講習の最低必要単位が15単位から19単位に変更（1969年度から実施）  
[講習] 講習を夜間に実施
- 1970年 [講習] 学院事業局社会教育課に司書・司書補講習の担当者を配置  
[講習] 講習を夏期（短期集中）と夜間に実施
- 1971年 [講習] ももやまぶんこ（桃山学院大学児童図書館）設置  
[大学] 登美丘キャンパス（堺市）に学舎統合
- 1973年 [講習] 大学司書講習事務室を設置  
[大学] 経営学部設置
- 1974年 [講習] 「地域文庫・家庭文庫入門講座」開催
- 1976年 [講習] 桃山学院短期大学（愛媛県新居浜市）で夏期講習実施、300名以上参加
- 1977年 [講習] 「ヨーロッパ図書館見学セミナー実施」（8月20日～9月3日）
- 1982年 [講習] 図書館学特別講座（上級コース、入門コース）開催（1981年度）
- 1989年 [講習] 社会教育センター設置（司書・司書補講習実施）  
[大学] 文学部設置
- 1991年 [講習] 司書・司書補講習30周年記念式典（3月21日）
- 1995年 [大学] 大学が登美丘キャンパス（堺市）から和泉キャンパス（和泉市）に全面移転  
※社会教育センターは昭和町で継続
- 1997年 [講習] エクステンション・センター設置（司書・司書補講習実施）  
※昭和町キャンパスと和泉キャンパスの両方に事務室を設置。司書・司書補講習は昭和町で実施
- 2002年 [大学] 法学部設置
- 2005年 [講習] 司書・司書補講習の事務室を和泉市の大学へ移転（12月15日）



- 2006年 [講習] 司書・司書補講習を大学（和泉キャンパス）で実施
- 2008年 [大学] 国際教養学部設置（文学部改組）  
[一般] 「図書館法」改正（6月）
- 2010年 [講習] 司書・司書補講習50周年記念講演・祝賀会（9月18日）
- 2020年 [講習] 司書・司書補講習60周年

#### 【参考文献】

- (1) 大城善盛『司書職制度の再構築：日本の図書館職に求められる専門性』日本評論社、2019年
- (2) 大谷康晴「司書の専門性評価：資格認定制度と司書課程」『青山学院女子短期大学紀要』第57輯、青山学院女子短期大学、2003年12月
- (3) 大庭一郎「「司書および司書補の職務内容」：日本の公共図書館における専門的職務と非専門的職務の分離の試み」『図書館学会年報』44巻3号、日本図書館情報学会、1998年
- (4) 小泉徹「国際交流プログラム「司書の海外研修：ホーナー日本交流基金」について－アリゾナ州図書館協会と日本図書館協会の交換研修10周年」『図書館雑誌』104巻4号、2010年4月
- (5) 志保田務「桃山と司書・司書補講習会－沿革小史」『司書講習の三十年』桃山学院大学社会教育センター、1990年
- (6) 志保田務「桃山学院大学と司書・司書補講習－沿革小史－」『桃山学院大学司書・司書補講習50周年記念誌』桃山学院大学エクステンション・センター、2011年
- (7) 千錫烈編著『図書・図書館史』（ベーシック司書講座・図書館の基礎と展望10）、学文社、2014年
- (8) 辰巳義幸「桃山学院大学司書・司書補講習の50年にあたって」『桃山学院大学司書・司書補講習50周年記念誌』桃山学院大学エクステンション・センター、2011年
- (9) 『鶴見大学司書・司書補講習60周年記念誌』鶴見大学司書・司書補講習60周年記念事業実行委員会、2014年
- (10) 『近代日本図書館の歩み 地方篇』社団法人日本図書館協会、1992年
- (11) 長谷川俊英「司書・司書補講習における図書館員養成」『図書館界』Vol.28、日本図書館研究会、1976年9月
- (12) 長谷川俊英「1970年～78年の司書・司書補講習を担当して」『桃山学院大学司書・司書補講習50周年記念誌』桃山学院大学エクステンション・センター、2011年
- (13) 三浦太郎「戦前から戦後占領期日本における図書館員養成の実態－講習の展開を中心に－」『明治大学人文科学研究所紀要』第70冊、明治大学人文科学研究所、2012年
- (14) 三浦太郎編著『図書・図書館史：図書館発展の来し方から見えてくるもの』ミネルヴァ書房、2019年
- (15) 『桃山学院百年史』桃山学院、1987年